

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	岩井 智子	経営	H2301113
	②	平林 亨子	福祉	H2301072
	③	小田嶋 ひろ子	福祉	H2301098
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	砧小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	157-0067		
	所在地	世田谷区喜多見6丁目9番1号		
	TEL	03-3417-6949		
事業所代表者氏名	事務局長 新田 利子			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 25 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 26 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 25 日			
訪問調査日	2025 年 10 月 7 日			
評価合議日	2025 年 10 月 7 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 児童をとりまく環境を整え、安全で安心な交流の場となるようにする 2) 日々の遊びや行事活動、異年齢交流を通じ、児童の健やかな成長を図れる場とする 3) 日常の遊びを充実させる</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうしたの？」との声をかける姿勢に始まり、子どもの声に耳を傾け、困ってることや嬉しかったことを聞ける人材</li> <li>・主体的に意見を発信できて、価値観が異なる意見や考えに対しても聞くことのできる協調の姿勢がある</li> <li>・公的施設で働く職員として倫理観をもって、職務に当たれる人材</li> </ul> <p>(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全の意識を最優先に持ち、状況に応じて環境を変更すること</li> <li>・子どもが「今日も楽しかったね」と言える、生活の場を提供すること</li> </ul>

	登録児童全員を対象とした。
調査対象	
調査方法	Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数 151

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	151	0	151
共通評価項目による調査の有効回答者数	67	0	67
利用者総数に対する回答者割合(%)	44.4	0.0	44.4

**利用者調査全体のコメント**

調査対象者151名のうち、67名から回答を得ることができた。  
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「職員の接遇・態度は適切か」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」などがあげられる。  
 総合的な満足度では、65名が「大変満足、満足」、1名が「どちらともいえない」、1名が「不満、大変不満」と回答している。また、「もっとおやつを増やしてほしい」「お楽しみ会などのイベントを増やしてほしい」「上の学年ともっと一緒に遊びたい」などのコメントがあがっている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	59	6	1	1
59名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「漫画がいっぱいある」「いろいろな遊びができて楽しい」「サッカーが楽しい」「絵本とか増やしてほしい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	48	9	1	9
48名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「先生は忙しそう」「話を聞いてくれる時もある」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	62	2	2	1

62名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「おいしい」「いろいろなものが出て嬉しい」「好きでないお菓子も出る」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	38	10	6	13
38名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、6名が「いいえ」と回答している。また、「話し合いをしたことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	52	5	3	7
52名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「プレイルームに貼ってあるのでわかる」などのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	45	12	8	2
45名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、8名が「いいえ」と回答している。また、「整ってはいるけど、プレイルームのおもちゃの順番が整っていない」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	57	6	1	3
57名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「先生たちはみんないい」「言葉や口調が気になることもある」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	63	1	0	3
63名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生に言えばすぐに手当してくれる」「気づいてもらえないこともある」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	57	5	1	4
57名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「言えばすぐ来てくれると思う」「トラブルを経験したことがないからわからない」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	50	9	0	8
50名が「はい」、9名が「どちらともいえない」と回答している。また、「みんなの名前を必ず覚えてくれるから嬉しい」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	44	10	3	10
44名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。子どものプライバシーが守られている様子がうかがえる。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	55	6	0	6
55名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生に言えばやってくれると思う」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	24	5	8	30
24名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、8名が「いいえ」、30名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	職員全員が理念や方針を理解し、日々の運営や支援に活かす仕組みが整っている 職員が理念や方針を理解し運営できるよう、日々のミーティングや月2回のロングミーティングで情報共有と課題整理を行っている。前日の振り返りや児童・保護者対応、当日の行事内容や職員担当など運営に関する確認を全職員で共有し、意見交換の中で改善点を明確にしている。職員の理解を深める取り組みを継続することで、日々の支援や行動に理念が反映され、子どもにとって安心できる居場所づくりにつながっている。また、見学会や入会説明会、保護者会などを通じて、保護者にも方針の具体的内容を分かりやすく伝えている。	
	明確な役割分担と話し合いにより、全職員が共通目標をもって子どもを支援している リーダー層は理念の実現に向け、自らの役割と責任を明確にし、職員に方向性を示している。ロングミーティングでは方針や課題を共有し、年度初めに役割分担表や文書を配布して職務内容を周知している。日々の業務の中でも職員の動きを確認し、課題がある際は原因を話し合い、より良い方法を検討する仕組みが整っている。役割の均等化や職員が協力して子どもを支援する姿勢を大切に、リーダー層が率先して支援現場をリードすることで、全職員が同じ目標を持ち、主体的に子どもの成長を支える組織づくりを進めている	
	所管課で決定された重要案件の内容を職員や保護者に周知し、開かれた運営に努めている 重要な案件は、所管課・事務局長会・館長会などで協議の上、決定されている。決定事項はミーティングを通じて職員に伝達され、掲示や閲覧、配付によって全員が把握できる体制を整えている。ミーティングに参加しない職員にも重要な点は説明し、共通認識で日々の支援が行えるようにしている。また、保護者や地域にも「新BOPだより」や連絡アプリ、掲示物、保護者会や新BOP運営協議会などの会議の場を通して情報を発信し、区の意思決定の手順や内容が共有されることで、わかりやすく開かれた運営に努めている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者や子ども・職員の意見を継続的に収集し、より良い運営へつなげている</p> <p>保護者については、年3回の保護者会や学年ごとに2回に分けて行う個人面談、送迎時の対話、父母会役員も参加する年2回の新BOP連絡協議会などを通して意見を収集している。子どもについては、読んでみたい本に関するアンケートで希望を聞き、日常会話の中でも職員が意識して要望を聞き取るよう努めている。また、ミーティングや日々の会話、年間振り返りの場を通じて職員の意見や改善提案を整理・検討し、運営や行事計画に反映している。保護者や子ども、職員の意向を日常的に把握し、運営に活かしている。</p> <p>年間計画を基に職員間で役割や活動を共有し、子ども支援や運営に取り組んでいる</p> <p>所管課が策定する地域福祉のニーズを踏まえた中・長期計画に基づき、クラブ独自の年間目標と計画を立てている。計画内容には、年間行事、室内やスポーツなどの遊び、子ども支援の重点事項、地域・学校との連携、保護者対応、研修、安全管理など多くの具体的事項が含まれ、職員一人ひとりの役割や活動内容も明確にされている。また、在籍児童数の増加への対応や、配慮を要する子どもの支援についても、子どもにとってより良い支援のあり方を検討し、職員間で共通認識をもてるよう、ミーティングなどを通して共有と確認を重ねている。</p> <p>学期末・年度末に振り返りを行い、職員全体で課題を共有して計画に活かしている</p>		

計画内容については、定例ミーティングで活動状況や課題を日々話し合っている。学期末には振り返りを行い、年度末には、運営、子どもの理解・対応、行事、職員体制など、各分野の項目がある評価シートに職員が記入し、反省や課題、改善点を四段階で評価している。リーダー層はこれをまとめて職員に提示し、全体で共有・検討した上で、次年度の計画に反映する仕組みを整えている。また、事務局長は職員ヒアリングを実施し、職員の意見や気持ちをくみ取り、意見交換しやすい環境を整えることで、子どもへの支援が円滑に進められている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当	
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当	

### カテゴリ3の講評

#### 職員が法や倫理を意識し、人権を尊重した行動ができるよう共通理解を深めている

公的施設で子どもに関わる職員として守るべき法・規範・倫理および個人の尊厳について、新BOP運営基準などを通じて周知している。定例ミーティングでは、社会人としての基本姿勢や人権尊重の意識を共有し、理解を深めている。外部研修などの参加報告を共有することで、職員一人ひとりが自身の行動を振り返る機会を設け、日常の中でもお互いの言動を確認し、注意し合える雰囲気大切にしている。また、ミーティングに参加しないプレイングパートナーには、手引書を用いて服務規律や個人を尊重した子ども対応について指導している。

#### 保護者の意見や要望を適切に受け止め、虐待防止に配慮した対応と連携体制を整えている

保護者からの意見や要望、相談については、所管課や担当児童館長、地域の関係機関など外部の相談先を、保護者会や個人面談の場で案内している。直接意見や要望が寄せられた際には、事務局長が中心となって丁寧に説明し、必要に応じて児童館長とも連携して対応している。また、虐待防止の観点から、ミーティングで職員同士が日常の関わりを振り返り、声をかけ合いながら早期発見・対応への意識を高めている。家庭での虐待が疑われる場合には、学校や子ども家庭支援センター、児童相談所などと速やかに連携できる体制を整えている。

#### クラブの情報発信を行い、行事などにも参加して地域の一員として協働に努めている

地域に開かれたクラブ運営をめざし、新BOPだよりや学童クラブだよりの発行、見学者の受け入れ、新BOP連絡協議会での活動情報報告などを通して、広く情報を伝えている。また、地域の高校生の職場体験も受け入れ、福祉や教育について理解を深める機会としている。さらに、地域団体実行委員会による夏まつりや、児童館主催のちいきこどもまつりなどの行事に子どもや職員が参加し、地域の中の施設として楽しみながら取り組んでいる。館内連絡会やブロック局長会などのネットワークにも参加し、地域課題の共有や協働にも取り組んでいる。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p><b>安全対策マニュアルを整備し、学校や保護者、関係機関と連携して災害時対応している</b></p> <p>子どもたちが安心して過ごせる居場所を守るため、事故、災害、不審者侵入など多様なリスクに備え、新BOP安全対策マニュアルを整備し、職員間で対応を共有している。「災害時・緊急時の対応について」という学校とクラブの災害対応文書があるが、新BOPの1階の部屋は土砂災害警戒区域に該当し、記載のない対応が求められている。そのため、急遽「土砂災害警戒情報発令時の対応マニュアル」を作成し、学校や保護者、所管課、児童館と連携する体制を整えている。発令時を想定した避難訓練を実施し、子どもと職員への周知を徹底している。</p> <p><b>マニュアルに基づき、けが発生時の迅速な対応と再発防止に向けた取組みを継続している</b></p> <p>クラブでのけがについては、新BOP安全対策マニュアルに対応方法が明記されている。帰宅時の校門付近で子どもが転倒し、けがをする事故があったが、保護者や学校に速やかに連絡し、養護教諭と連携して迅速に救急対応を行うことができ、日ごろから学校と密に連携していることが良い支援につながっている。その後、事故報告書を作成し、ミーティングで原因を検討し、再発防止策について話し合っている。さらに、子どもたちへの注意を促すなど、事故防止への意識をクラブ全体で共有し、同様の事例が発生しないよう継続的な改善に努めている。</p> <p><b>職員全員で個人情報規程の遵守を徹底し、安全かつ適切な個人情報管理を行っている</b></p> <p>所管課が作成した個人情報の収集・整理・保管・廃棄に関する規程について、職員が理解し遵守できるよう、ミーティングで日常的に周知し、研修内容も全体で共有している。入会申請書や児童台帳、記録類は鍵付き書棚にて厳重に管理され、退庁前には安全確認チェックリストを用いて施錠状況を確認している。パソコンの利用においても、アクセス権限を明確にし、適切な管理体制を整備している。また、個人情報記載の書類は職場外への持ち出しを禁止し、職員は必要な情報を適切に活用して児童支援に活かせるよう、情報管理を徹底している。</p>		

5			12/12
カテゴリ-5			
職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

## カテゴリ5の講評

### 職員の採用や配置に工夫し、得意分野を活かして働きやすい職場づくりを進めている

常勤職員と会計年度任用職員は区の採用だが、プレイングパートナーは各新BOP独自でポスターや、知人のつながりなどで採用している。事務局長が面接を行い、採用時には服務規律や仕事内容、配慮してほしいなどをまとめたしおりを説明し指導している。職員の異動や配置は館長、事務局長が相談の上、本人の希望や家庭状況、将来性を考慮し、適材適所となるようにしている。リーダー層は一人ひとりの意見や希望を聞き取り、日常業務では職員の得意分野を活かした役割分担を行い、互いを尊重し合い、働きやすい環境で子どもの支援に努めている。

### 職員一人ひとりの意欲を引き出し、学び、支え合いながら組織全体で支援力を高めている

勤務形態にかかわらず学びを深められるよう、研修の機会を大切にしている。区の研修を受講した職員は、内容をミーティングで報告・共有し、支援や運営に活かしている。事務局長のヒアリングでは、職員一人ひとりの成長や意向を丁寧に聞き取り、意欲を高めて職員集団の質を高めている。事務局長は、常勤職員に自らの経験を伝え育てようという意識を持ち、全体会前の打ち合わせで助言を行い、指導力の向上に努めている。職員同士が学び合い、支え合いながら成長できる温かな雰囲気や育まれ、組織全体の力にもつながっている。

### 日々の気づきを出し合い、課題の共有と改善を通して組織の一体感を深めている

日々の業務で気づいたことや工夫をミーティングで出し合い、子どもへの関わりや環境づくりに活かしている。特に、子どもの良い姿や気になる様子を職員全員で共有することを大切にし、それぞれの気づきを深め、同じ認識で考えることにつなげている。また、年度末には一年の活動を振り返るシートを使い、常勤・会計年度任用職員それぞれが課題や改善点を記入し、全体で話し合いながら次年度の計画に反映している。この過程で職員同士の信頼関係やチームワークが育まれ、チーム全体の一体感もいっそう高まっている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

学校内に設置された施設であり、学童クラブの活動上、子どもが活動する場所を安全で安心なものとするは必須であり、継続的に取り組むべき課題であると考えている。

【具体的な取り組み】

- ・日々、子どもの受け入れ前と終了後に、施設内外の清掃・片づけ・点検。
- ・月1回の「環境デー(環境整理日)」を設け、片づけや遊具の点検を重点的な実施。
- ・子どもの意見を聞きながら、定期的に遊具や本の入れ替え。

【取り組みの成果】

- ・環境デーを実施することで、破損した遊具や危険箇所を事前に発見・撤去でき、児童が安心して過ごせる環境づくりが進んだ。
- ・毎月、棚の整理や収納方法の見直し、ロッカー上や倉庫の整理、不用品の処分など、重点箇所を決めて環境整備を行った。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

- ・以下の具体的な取り組みを進める。
- ・子どもの環境整備に向けて、月ごとに動作目標を掲げ、意識づけのために掲示していく。
- ・年間を通して環境デー(環境整理日)の担当者を定め、その職員が提案する整理場所をもとに、計画的に取り組みを進めていく。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、BOP参加児童を含め毎日約150人の子どもたちが過ごしており、「安全・安心に過ごせる居場所づくり」を重要課題として位置づけている。日々の清掃や点検、月1回の「環境デー」などを通して、安全で快適な環境整備に継続的に取り組んできた。環境デーでは、破損した遊具や危険箇所を早期に発見・修繕・撤去することで、安全管理の意識が職員全体に浸透してきている。また、子どもの意見を取り入れて遊具や本の入れ替えを行うなど、環境整備を子どもの主体的な関わりの機会としても活かしている。今後は、月ごとの動作目標を掲示して全体の意識づけを行い、担当職員が提案する形で環境整備を進めることで、より計画的で持続可能な取組みとする方針である。職員が協力しながら課題を共有し、主体的に取り組むことで、安全で心地よい居場所づくりの体制が着実に整えられている。PDCAサイクルに基づく課題解決の取組みが展開されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

学童クラブという異年齢集団の中で、さまざまな遊びや行事を体験できる機会の設定。そのための具体的で継続的な支援の推進。

【具体的な取り組み】

- ・学期ごとの行事計画による、集団遊びや工作イベントを通じた異年齢交流の促進。
- ・子どもの自由な発想を活かすための、工作材料の充実と遊具(ボールなど)の補充。
- ・子どもの本のリクエスト募集による、自分の意見が反映され認められる機会の創出。

【取り組みの成果】

職員の得意分野を活かして遊びや工作を実施し、連携・調整を図りながら行事運営を行ったことで、子どもたちからも好評で、楽しめる活動となった。毎月の行事を通して異年齢交流や充実した遊びの場を提供でき、特にサッカーでは上級生がリーダーとなり盛り上がる姿が見られた。一方、担当者の準備遅れにより、行事の重なりや実施時期がずれること、子どものニーズに十分応えられない日程もあった。

【今後の取り組み】

以下の具体的な取り組みを進める。

各行事・イベントの回数や担当者の配分、実施時期・日程の検討・調整の早期実施による計画的進行、新任職員の行事担当は日常業務習得後の段階的配分。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li>○ 具体的な目標が設定されていない</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li>● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li>● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、子どもが異年齢集団の中で多様な遊びや行事を体験し、健やかに成長できる場を提供することを重要課題として取り組みを進めてきた。

具体的な取り組みとして、学期ごとに行事を計画し、職員の得意分野を活かした工作や集団遊び、季節のイベントを実施することで、子どもたちは多くの体験をし、子ども同士が学び合い、主体的に関わる機会も生み出している。日程の計画や担当者の配分について課題があったため、改善に向けた検討が進められてきている。

今後は、行事の回数や担当者の配分、実施時期・日程の検討を早めに行い、計画的に進めることとしている。また、新任職員が入職した際には、全体の流れを把握した上で段階的に行事を担当させ、職員が協力して取り組む体制とされている。

PDCAサイクルに沿った課題解決への取り組みが展開されている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
1	サブカテゴリ1	
	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	
◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ1の講評		
<p><b>就学時健診で新BOP案内を配布・見学会を実施し、保護者へ情報提供している</b></p> <p>就学時健診の際に、小学校の配布資料と併せて新BOPの案内を配布し、健診後の時間帯で見学会を実施して、情報提供している。区作成の案内に加え、学童クラブ独自の「新BOP案内」も配布している。内容は参加者数、活動場所、職員体制のほか一日の流れや行事を記載し、裏面には遊びの様子を写真付きで紹介して、子どもにも理解しやすいよう工夫している。保護者向けには、紙媒体と電子媒体の両方で情報提供を行っており、保護者に伝わりやすいよう配慮している。緊急時には、学校の保護者連絡アプリの使用により、迅速な情報提供を行っている。</p> <p><b>掲示物で子どもに活動を伝え、通年で見学対応しており、保護者の安心に配慮している</b></p> <p>廊下や室内に子ども向け掲示物を設置しており、文字を大きくしイラストを添えるなど、子どもの目線に合わせた掲示方法が工夫されている。これにより、子ども自身が活動内容やルールを視覚的に理解しやすくなっている。また、学童クラブ入会募集に関しては、区のホームページや広報誌、ポスターを活用し、保育園・幼稚園・児童館など複数の場所で情報発信を行っている。申請時期だけでなく、通年で業務時間内での見学を随時受け付け、質問に応じる柔軟な対応を行っており、保護者の不安軽減をはかり、信頼を得る取り組みとなっている。</p> <p><b>年2回の連絡協議会で運営状況を共有し、地域連携と信頼性向上に努めている</b></p> <p>年2回開催される「新BOP連絡協議会」では、小学校関係者、地域団体、保護者代表、児童館職員など多様な関係者が集まり、運営方針の説明や現状報告が行われている。このような場を通じて、事業所の運営状況を共有し、地域との連携を図ることで、サービスの透明性と信頼性を高めている。常勤の児童指導と非常勤の指導員、及びプレイングパートナー(PP)という体制の中で、150名程度の児童を受け入れ、延長利用や配慮が必要な児童への対応も含め、情報提供の質と量を確保している点は、職員の努力と工夫の表れである。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>利用料や同意事項を丁寧に説明し、保護者・児童に配慮した入会対応が行われている</p> <p>新規入会者に対しては、毎年3月に入会説明会を開催し、欠席者には個別に日程調整して説明を行うなど、丁寧な対応がなされている。随時入会者にも個別説明会を実施している。学童クラブの利用料は募集案内に明記されており、延長利用やデリバリー弁当の料金は、おたよりや個別問い合わせ時に説明がなされている。画像使用や名前記載に関しては、説明会やイベント時に都度確認を行い、保護者の意向を尊重している。説明会は保護者だけでなく子どもの参加も可能で、保護者の状況に配慮した対応がなされており、安心感の醸成にも寄与している。</p> <p>1年生に流れを丁寧に説明し、安心して過ごせる環境づくりに配慮している</p> <p>利用開始直後の1年生には、登所からの一連の流れ(靴の履き替え、出席確認、帰り時間の確認、ロッカーへの荷物収納など)を説明し、部屋の案内や1年生だけでゆっくり過ごす時間の設定など、環境変化への配慮がなされている。兄弟や知り合いを通じて輪に入りやすい雰囲気づくりを行い、学習時間には絵本や塗り絵などで過ごすことも選択できるようにしている。生活時間の区切りで次の予定や行動を伝えており、子どもが安心して過ごせるように配慮されている。職員による声掛けや見守りも丁寧で、入所当初の不安軽減に効果を上げている。</p> <p>面談等で配慮事項を把握し、職員が工夫を重ねて継続的な支援に努めている</p> <p>配慮が必要な児童には児童票や面談で情報を把握し、本人の希望を尊重した過ごし方が検討されている。入会前には保護者との面談を実施し、家庭の希望と施設の支援内容をすり合わせるなど、丁寧な対応が見られる。一方、職員アンケートでは要配慮児の受け入れに関して環境整備や職員体制の不備が指摘されており、専門知識を持つ人材の配置や研修の必要性が挙げられている。現場では職員の負担が大きく、支援の継続性を保つためには、日々の情報共有や関わり方の工夫、環境面での改善提案など、現場からできる取り組みを積み重ねていくことが重要である。</p>		

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
<b>評価項目1</b> 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
<b>評価項目2</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
<b>評価項目3</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
<p><b>育成支援の振り返りと計画作成を行い、年間目標や活動方針を明確にしている</b></p> <p>年度末に1年間の育成支援の振り返りを行い、新年度の年間計画表を作成している。計画表には年間目標、毎月の行事予定、活動計画、地域との連携内容が記載され、育成支援の方向性が示されている。育成の記録は日誌、ミーティングノート、PPミーティングノート、面談記録用紙に記録され、職員がいつでも閲覧できる場所に保管されている。年2回の個人面談では、クラブでの生活や自立に向けた取り組みを確認し、関わり方を見直している。育成支援の目標や計画は保護者会や連絡協議会で発信されている。</p> <p><b>職員ミーティングで育成状況を共有し、記録と安全確認が丁寧に行われている</b></p> <p>職員ミーティングでは、業務内容、前日の育成に関する職員報告、伝達・検討事項等の情報共有が図られ、ミーティングノートに記録されている。PPIについても、終了時に育成状況をその日のリーダー職員が聞き取り、PPミーティングノートに記載されて翌日共有されている。日誌には、育成内容、参加者、行事、遊びの内容、けがや事故、間食、特記事項、学校等との連絡調整、保護者対応等が項目別に記載されており、記録の網羅性が高い。また、安全確認チェックリスト項目により育成前から終了までの安全確認が行われている。</p> <p><b>日々の変化を職員間で共有し、今後は記録整備によって支援の継続性向上が期待される</b></p> <p>毎日のミーティングで、子どもや保護者の変化に関する情報を共有し、対応の統一を図っている。月2回のロングミーティングでは、子どもの成長や課題となる行動への対応について職員間で話し合いが行われている。配慮が必要な子どもについても、成長の様子や問題行動が大小問わず毎日のミーティングで共有され、継続的な支援につながっている。一方で、日々の個別記録を残すための書式が未整備であるため、巡回相談などの前には職員が状況を遡って確認し、まとめて対応している。記録書式を整備して、支援の質と継続性が向上することを期待したい。</p>			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>子どものプライバシー保護に配慮し、情報共有や介助に丁寧な対応がなされている</b></p> <p>クラブでは、子どものプライバシー保護に対して丁寧な配慮がなされている。小学校との連携については、入会説明会や保護者会で事前に保護者へ説明を行い、安心して情報共有ができるよう努めている。発達や特性に関する情報を外部機関に相談する際は、「児童票」で保護者の同意を得てから進めるなど、個人情報の取り扱いに慎重な姿勢が見られる。また、勤務外で子どもの名前や情報を口にしないう職員間で意識を共有している。着替えやトイレ介助についても同性介助を基本とするなど、子どものプライバシーに配慮する取り組みが徹底されている。</p> <p><b>子どもの気持ちに寄り添い、丁寧な声かけと傾聴で信頼関係を築いている</b></p> <p>子どもの権利や気持ちを大切に作る姿勢が、日々の関わりの中にしっかりと根付いている。登所時には子どもの表情や様子に応じて声をかけ、「どうしたの?」「うれしかったの?」といった問いかけを通じて、気持ちを受け止める姿勢が見られる。子どもの話を最後まで目線を合わせて聞くことで、「聞いてもらえた」ことが子どもに伝わり、信頼関係が築かれている。また、職員同士で情報を共有しながら、子どもが安心して過ごせる環境づくりに力が注がれている。保護者の価値観や生活習慣を尊重し、丁寧なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><b>いじめや暴力に毅然と対応し、職員間で状況を共有して早期解決に努めている</b></p> <p>いじめや暴力行為は「絶対に許さない」という強い姿勢を職員で共有し、子どもたちにもその重要性を伝えている。人を傷つける言葉や行動が見られた際は、毅然とした対応を行い、関係性がこじれる前に職員が介入できるよう、日々のミーティングで状況を共有している。子ども同士のトラブルはその日のうちに解決するよう努め、必要に応じて保護者へ様子を伝え、きめ細かな対応をしている。一方で、人数が多い場面では、職員への伝達が不十分という声もあり、今後は職員間の連携や情報共有の方法を見直し、一人ひとりに寄り添える体制づくりが期待される。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>手引書やチェックリストを活用し、業務の標準化と安定運営の体制が整っている</p> <p>クラブでは、業務の標準化に向けて、区が作成した「新BOP運営基準」や「放課後児童健全育成事業の運営方針」「新BOP安全対策マニュアル」などの手引書を職員間で共有している。これらの資料は定期的に更新されており、保管場所も明確にされているため、職員が不明なことに直面した際にはすぐに確認できる体制が整っている。区のチェックリストを活用し、各自が業務内容を確認できる仕組みも機能している。こうした取り組みにより、どの職員が対応しても一定の質を保ったサービス提供が可能となっており、安定した運営の基盤が築かれている。</p> <p>年度末にルールを見直し、子どもや保護者の声を反映した改善が進められている</p> <p>年度末には、子どもたちの様子や生活環境の変化を踏まえて、クラブ内のルールや決まりごとの見直しが行われている。職員同士で話し合いを重ねながら、子どもや保護者からの声もできる限り反映し、より良い環境づくりに向けた改善が進められている。生活スペースの使い方や子どもの人数、職員体制なども考慮されており、現場の実情に即した柔軟な対応がなされていることがうかがえる。こうした見直しの積み重ねが、子どもたちにとって安心して過ごせる場所づくりにつながっており、サービスの質向上に向けた前向きな姿勢が感じられる。</p> <p>職員の多様性を活かしつつ、マニュアル整備で業務の標準化と安定運営を図っている</p> <p>職員は多様な経験や価値観を持ち、それぞれの個性を生かしながら子どもと関わっている。一方で、誰が対応しても一定の質を保てるよう、マニュアルの整備と改善に取り組んでいる。日々のミーティングや月1回のロングミーティングでは、育成支援に関する情報共有や対応の検討が行われており、標準化と個別性の両立を図る工夫が見られる。こうした取り組みが、職員間の連携を支え、子どもたちに安定した支援を提供する基盤となっている。今後は、記録の整備や共有方法の工夫により、さらに質の高い支援が期待される。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p><b>安心して学童クラブで過ごせるよう、入会時に保護者から丁寧に聞き取りをしている</b></p> <p>子どもが安心して学童クラブで過ごせるよう、入会時には保護者からの丁寧な聞き取りを行い、配慮が必要な場合はできるだけ早く電話連絡を入れて状況を把握している。面談は保護者の都合に合わせて土曜や夕方にも実施され、信頼関係の構築に努めている。児童票が未提出の子どもについても、巡回専門員と連携しながら支援を検討するなど、子ども一人ひとりの背景に寄り添った対応がなされている。こうした初期対応の積み重ねが、子どもにとって安心できるスタートにつながっている。</p> <p><b>遊びや行事では、異年齢の子どもたちが自然に関わり合える活動が取り入れられている</b></p> <p>日々の遊びや行事では、異年齢の子どもたちが自然に関わり合えるような活動が取り入れられている。校庭での集団遊びでは、苦手な子にも無理なく声をかけ、見学から始めて段階的に関わられるよう支援している。遊具やカードゲームの使用にはルールが設けられ、物の扱いや場の共有についても丁寧に伝えられている。配慮が必要な子どもについては、周囲の子にもその子の特性を伝え、共に過ごすための理解を促している。子どもたちはお互いの違いを自然に受け入れながら、関係を育んでいる。</p> <p><b>子ども同士のトラブル時は、子どもたち自身が解決できるかを見守り、支援している</b></p> <p>子ども同士のトラブル時には、すぐに介入するのではなく、子どもたち自身が解決できるかを見守る姿勢が大切にされている。怒りや不安が強い場合には、静かな場所で気持ちを落ち着ける時間を設け、言葉で気持ちを伝え合う支援が行われている。対応は職員間で共有され、ミーティングや記録を通じて情報が整理されており、必要に応じて保護者への連絡も行われている。感情面への支援は、子どもたちが人間関係を学び、安心して成長していくための学びを支えている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p><b>子どもたちの発想や興味を大切にし、自由工作ができる環境を用意している</b></p> <p>子どもたちの発想や興味を大切にし、自由工作ができるような素材を毎日、用意している。工作好きな子どもは、自分なりに作品を計画し、毎日、登室することを楽しみにしている。画用紙や図工の端材、地域からの寄付品、おやつ空き箱など、身近な素材を活かした工夫が見られる。工作は毎日17時まで可能で、子どもたちは思い思いの作品づくりに取り組んでいる。完成した作品は持ち帰ることで家庭とのつながりにもなっている。こうした環境づくりは、子どもの自主性や創造性を育む基盤として機能している。</p> <p><b>集団行動では、子どもが主体的に関われるよう個別支援を入れて参加している</b></p> <p>集団活動では、子どもが主体的に関われるよう、理解や表現に困難のある子どもには個別に対応し、必要に応じて職員が代弁するなどの支援が行われている。全体への説明も、ゆっくりと繰り返し伝えることで理解を促し、子どもが安心して参加できるよう配慮されている。また、子どもがイメージしやすいよう、具体的な例えを用いた説明も工夫されている。集団における活動が苦手な子どももいるため、このような支援により、子どもたちが無理なく集団の中で自分の役割を見つけ、関わりを深めることができている。</p> <p><b>基本的な生活習慣を身につけられるよう、一人ひとりに丁寧な声かけをしている</b></p>			

「ただいま」「おかえり」の挨拶をはじめ、日々の生活の中で、子どもたちが基本的な生活習慣を身につけられるよう、職員は一人ひとりに丁寧な声かけを行っている。手洗いやうがい、挨拶の意味を伝えながら、行動の背景にある意義を理解できるよう援助している。ハンカチの持参は繰り返し指導している。おやつの前には、生活の振り返りやマナーについて話す時間を設けており、子どもたちの意識づけに役立っている。人数や下校時間の違いにより全体への声かけが難しい場面もあるが、室内に目標を掲示するなど、環境面からの支援も工夫されている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>行事の企画にあたり子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</b>          行事の企画にあたっては、職員が子どもたちの興味を引き出すために試行錯誤を重ねている。見本の提示や遊び時間に備えた事前の工夫を丁寧に行っている。運動イベントでは、3年生に内容を伝え、普段の遊びの中でリーダーとして関わるように促し、当日の活動がスムーズに進むようにしている。「新BOPだより」の掲示による呼びかけも行われ、子どもたちの参加意欲を高めている。人気の工作イベントでは100人以上が参加するなど、子どもたちが自ら楽しみながら取り組む姿が見られる。</p> <p><b>運動イベントでは「子どもスタッフ」や「審判」などの役割を設けている</b>          運動イベントでは「子どもスタッフ」や「審判」などの役割を設け、子どもたちが主体的に関われるよう工夫されている。特に3年生男子がリーダーシップを発揮し、1年生から6年生までの参加者を手際よくフォローする姿が見られ、当日の説明時間が短縮されるなど、活動の質向上にもつながっている。事前準備ではポスター作成などに子どもが関わることで、意欲を高める仕掛けが施されている。また、本の購入に関しても年2回アンケートを実施し、子どもの意見を反映する機会が設けられている。</p> <p><b>子どもたちの主体的な活動を支え、「子ども企画」のイベントの実施を目指したい</b>          子どもたちの主体的な活動を支える仕組みは整えられており、意見を出せる場も設けられているが、人数の急増や業務量の増加により、すべての要望に応えることが難しい状況も見られる。現時点では「子どもの企画」としての実施には至っていないが、職員は工夫を重ねながら子どもの声を拾い上げようとしている。保護者への情報提供は「新BOPだより」を通じて行われており、行事の内容や子どもたちの様子を伝えることで、理解と協力を得る工夫がされている。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>「お帰り」と声をかけ、学びの場から生活の場への切り替えが自然に行われている</b>          学校から帰ってきた子どもに対して職員が「お帰り」と声をかけることで、学びの場から生活の場への切り替えが自然に行われている。子どもたちは学童クラブで友だちと過ごす時間を楽しみにしており、集団遊びだけでなく一人遊びにも配慮されている点が、個々の過ごし方を尊重する姿勢として評価される。特に、2・3年生で学童生活に物足りなさを感じる子どもには、BOPの利用を提案するなど、一人ひとりに適した利用の仕方を保護者と一緒に考えている。子どもの主体的な関わりを促す工夫として、実効性のある取り組みといえる。</p> <p><b>子どもが自ら生活の流れを理解し、習慣化していく力を育てている</b>          おやつや読書の時間や瞑想の時間を設定することで、子どもたちが生活の流れを把握しやすくなっており、見通しを持って過ごすことができる環境が整えられている。夕方5時以降はプレイルームに集合し、静かに本を読む時間を設けるなど、活動の切り替えが穏やかに行われている。帰りの会は実施していないが、電気を消して静かに連絡事項を伝える瞑想の時間が設けられており、子どもたちが落ち着いて帰宅に向かえるような工夫をしている。時間の区切りが、子どもが自ら生活の流れを理解し、習慣化していく力を育てている。</p> <p><b>子どもの人数や学年に応じて活動場所や環境を柔軟に変更している</b>          子どもの人数や学年に応じて活動場所や環境を柔軟に変更している。和室や少人数教室、家庭科室などを活用し、静かに過ごしたい子どもや、アレルギー対応が必要な子どもへの配慮がされている。椅子と机がある家庭科室は、おやつをゆっくり食べることができる。和室は障子で外からの視線を遮り、読書や宿題に集中できる落ち着いた空間となっている。夏季には体育館が使えない状況に対応し、涼しい部屋でビデオ鑑賞するなど季節や施設状況に応じた工夫も見られる。BOPとの連携も進められており、隔たりなく過ごせる環境が整えられている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との連携を通じて、日々子どもが安心して過ごせる環境づくりが進められている</p> <p>クラブでは、学校との連携を通じて子どもが安心して過ごせる環境づくりが進められている。毎月の「学校運営予定」や担任教諭との随時の情報共有をもとに、活動計画や援助の方針を調整している。施設の使用時間や下校時刻の確認も行い、学校併設の利点を活かした柔軟な対応が可能となっている。学校との連絡は必要に応じて行われ、子どもや保護者の情報を共有することで、複数の視点から子どもの状況を把握できる体制が整っている。こうした連携は、日々の生活が円滑に進み、支援の質が高まる環境づくりにつながっている。</p> <p>学校で困難を抱える子どもへの支援において、学校と連携できるようにしている</p> <p>学校で困難を抱える子どもへの支援においては、学校側からの情報提供を受けながら、クラブ内での関わり方や環境調整が行われている。現在、不登校の子どもはいないが、登校が難しい場合でも、学校の了承があれば放課後にクラブで受け入れる体制が整えられている。柔軟な対応は、子どもの居場所の確保と安心感の醸成につながっており、学校との信頼関係が支援の基盤となっている。今後も、子どもの気持ちに寄り添いながら、学校との連携を通じた支援の充実が期待される。</p> <p>配慮が必要な子どもへの支援では、関係機関との連携が積極的に図られている</p> <p>発達面や養育環境に配慮が必要な子どもへの支援では、子ども家庭支援センターや児童課など、関係機関との連携が積極的に図られている。世田谷区の巡回相談を活用し、専門職による観察と助言を受けながら対応が進められている。今年度からは児童課にも専門職が配置され、より身近な相談体制が整ってきている。外部機関との連携は、職員の支援力向上にもつながっており、子どもの見立てや対応の質を高めている。情報共有と機密保持のバランスにも配慮しながら、丁寧な支援が継続されている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが楽しく、落ち着いておやつを食べられる環境づくりを行っている</p> <p>おやつの中には、子どもが落ち着いて過ごせるよう、食べる場所や人数を明確にし、主に椅子と机のある家庭科室を使用して提供されている。日によって部屋が変わるため、子どもたちにはその都度伝達が行われている。麦茶も用意され、水分補給の機会も確保されている。一方で、子どもの人数に対して空間が十分でないため、騒がしくなる場面もあり、ふざけた食べ方やトラブルへの対応が課題となっている。職員間で日々の状況を共有し、子どもの全体を見守れる体制づくりに取り組んでいる点は、今後の改善に向けた前向きな姿勢として評価される。</p> <p>子どもの来所時間や帰り時間、他の活動時間を考慮しておやつを提供している</p> <p>おやつ提供は、子どもの来所や帰宅時間、活動の流れを考慮し、早帰りの子や低学年から順に行われている。おやつ時間は休息も兼ねており、子どもがゆったりと過ごせるよう配慮されている。遊びを優先して食べない子どもには、保護者に報告し、補食の意義を伝えるなど、丁寧な対応がされている。おやつは区の契約業者から週1回配達され、メニュー表をもとに一週間の献立が組まれている。乳製品や果物、調理パンなども含まれ、子どもたちの好みに合わせた工夫が見られる。おかわりはアラカルト形式で提供され、選ぶ楽しみも取り入れられている。</p> <p>アレルギーのある子どもには、別室でゆっくりとおやつをとれるよう配慮されている</p> <p>アレルギーのある子どもには、少人数教室や別室を活用し、静かな環境でゆっくりとおやつをとれるよう配慮されている。おやつは業者が個別に対応し、専用のプラケースに保存されたものを、マニュアルに基づいて複数の職員が成分表を確認のうえ提供している。誤食防止のため、納品されたメニューの成分表は毎月保護者にも確認してもらう体制が整えられており、家庭との連携も図られている。こうした丁寧な対応は、子どもの安全を守るだけでなく、職員の意識向上にもつながっている。安心して過ごせる環境づくりの一環として継続的な実践が期待される。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>安心して遊べるよう、活動前には毎回、校庭や体育館での注意点を丁寧に伝えている</b></p> <p>子どもたちが安心して遊べるよう、活動前には毎回、校庭や体育館での注意点を丁寧に伝えている。特に「鬼ごっこ」や「サッカー」など、転倒しやすい遊びでは、職員がそばで見守り、危険な行動にはその場で声をかけるなど、きめ細やかな対応がなされている。人手の制約から遊びの内容を絞る工夫も見られ、安全を第一に考えた運営が行われている。軽いすり傷などには柔軟に対応しつつ、重大なけがや頭部の外傷には保護者への連絡と医療機関の受診を徹底するなど、状況に応じた判断がなされており、子どもたちの健康と安全を守る姿勢がうかがえる。</p> <p><b>感染症対策として、手洗いや換気など、日常の中でできる予防策が丁寧に実践されている</b></p> <p>感染症対策として、手洗いや換気など、日常の中でできる予防策が丁寧に実践されている。特に外遊びやおやつの前の手洗いは習慣化されており、子どもたち自身の健康意識の育成にもつながっている。一方で室内の密集や換気については、気温や設備の制約から難しさもある。夏は虫の侵入、冬は寒さへの配慮が必要で、学校側に網戸の設置を要請するなど、改善に向けた働きかけも行われている。月に一度の「環境デー」では、遊具や動線の点検を通じて、安全な遊び場づくりに取り組んでおり、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりが大切にされている。</p> <p><b>医療的な配慮が必要な子どもには、保護者を通じて専門機関の助言を取り入れている</b></p> <p>医療的な配慮が必要な子どもについては、保護者を通じて専門機関の助言を取り入れながら、個別の対応が行われている。学校の養護教諭との連携も良好であり、感染症の流行状況や緊急時の対応について、迅速な情報共有が可能な体制が整っている。保健室の利用には制限があるものの、必要に応じて協力を得られる関係性が築かれており、重症時には学校設備や職員の支援も受けられるようになっている。発熱時の対応も明確で、37度で保護者に連絡、37.5度以上でお迎えを依頼するなど、感染拡大を防ぐための対策が講じられている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>保護者の声を聞く機会が設けられ、安心して子育てできる環境づくりが進められている</b></p> <p>保護者同士、また保護者と職員とのつながりを大切に工夫がある。保護者会では交流の時間が設けられ、子どもの成長について話す機会があることで、保護者同士が子育てについて共有することができている。保護者との個人面談は年3回実施されており、1回目は1年生の保護者に子どもの様子を伝えて不安の軽減につなげている。2回目は11月頃に2・3年生の保護者と自立に向けた話を中心に行い、3回目は年度末に希望する3年生の保護者を対象に退所に向けた面談を実施している。このような関わりが、保護者の安心感と信頼の醸成につながっている。</p> <p><b>保護者が気軽に相談できる体制が整い、安心感と信頼関係の構築につながっている</b></p> <p>保護者が気になることを気軽に相談できる体制が整っている点も、安心感につながっている。年間2回の個人面談では、子どもの発達や生活の様子をじっくり確認する時間が設けられている。また、個人面談を通じて「何かあればいつでもご連絡ください」と伝えるなど、日常的なコミュニケーションを大切に、随時対応できる態勢を取っている。子どもの友達関係などで心配なことがあればすぐに相談できる環境があることで、保護者の不安が軽減され、職員との信頼関係も深まっている。こうした丁寧な関わりが、保護者の安心につながっている。</p> <p><b>登退所時の柔軟な対応と安全確認が、保護者の安心と信頼につながっている</b></p> <p>クラブでは、子どもたちの登所・退所時間の対応に細やかな配慮がなされている。連絡アプリでの確認以外にも、保護者の事情に合わせた子どもへの伝言や声かけを行い、帰る時間の柔軟な調整が行われている。子どもが欠席の連絡なく来ていない場合には靴箱を確認し、保護者に電話で状況を確認している。子どもの安全確認のために、職員が子どもの家までの通学路に出向くこともあり、子どもたちの安全を第一に考えた取り組みが行われている。こうした日々の積み重ねが、保護者の安心につながっており、信頼される環境づくりに役立っている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>クラブでは地域と連携し、子どもが多様な体験を通じて自立と成長を育んでいる</b></p> <p>クラブでは、児童館や地域の団体と協力しながら、子どもたちがさまざまな体験をできるよう工夫されている。たとえば、スポーツ振興財団の協力によってドッチビーを楽しむ機会が設けられているほか、児童館職員による「出前児童館」イベントを年2回実施している。こうした活動は、学童クラブの枠を超えた体験となり、子どもたちの興味や関心を広げるきっかけになっている。地域の人との関わりを通じて、子どもたちが社会の一員としての意識を育むことにもつながっており、自立や成長を支える大切な取り組みと言える。</p> <p><b>児童館のおまつりに出店参加し、地域交流と協力の体験を通じて成長を促している</b></p> <p>児童館主催のおまつりでは、クラブの子どもたちが計画や準備を進め、出店者として参加する機会が設けられており、地域の大人や他の子どもたちとの自然な交流が生まれている。こうした場面では、子どもたちが自分の役割を持ち、協力しながら活動することで、責任感や達成感を得ることができている。また、地域の方々とのふれあいを通じて、子どもたちが安心して過ごせる環境が広がっている様子もうかがえる。クラブが地域の行事に積極的に関わることは、子どもたちの生活の幅を広げ、地域とのつながりを深める大切な取り組みとなっている。</p> <p><b>地域行事や安全活動への参加を通じて、子どもの成長と安心を支える関係が築かれている</b></p> <p>小学校で行われる「夏まつり」には、学童クラブの職員が実行委員として関わり、PTAや青少年委員、町内会、地区センター、区職員などと協力して準備段階から参加している。当日はゲームコーナーを担当し、多くの子どもや保護者と交流している。また、防犯協会による交通安全の取り組みも年に一度実施され、地域の安全意識を子どもたちに伝える機会となっている。地域との連携は、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりに貢献するとともに、職員が地域の関係者とつながることで、子どもたちに多様な体験や人との関わりが広がる機会となっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	事務局長の指導のもと、職員のチーム力と支援の質の向上が着実に進められている	
内容①	事務局長は、学校や新BOP学童クラブでの豊富な経験をもとに、「どうしたの」と問いかけながら子どもの声に耳を傾け、寄り添う姿勢や関わり方の視点を日常の会話やミーティングで伝えている。その過程で、職員が同じ方向を見据え、意見を出し合える雰囲気づくりが進み、チームワークの質も高まりをみせている。子どもの情報共有や支援内容の振り返り・課題検討も丁寧に行い、支援の質が向上している。学童クラブがBOPとは異なる「育成支援の場である」という基本理念も事務局長から職員に伝えられ、保護者や学校と連携しながら支援を行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	一人ひとり子どもに寄り添った支援で子どもの自信につなげている	
内容②	クラブでは、一人ひとりの子どもに寄り添った支援を大切に自信につなげている。日々の自由時間に行う工作は、好きな子どもにとって学童で過ごす楽しみのひとつとなっている。工作ではセロテープを使わず「のり」を使用する決まりがあり、はじめは苦手だった子どもも、職員がそばで一緒に考えながら指導することで次第に使い方を覚え、工夫を凝らした作品を完成させている。完成した作品を認めてもらうことで達成感を味わい、次の制作への意欲へとつながっている。積み重ねが子どもたちの自信を育み、日常の中で成長を実感できる場となっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	面談を通じて自立の確認と支援制度の説明が行われ、保護者の安心感を支えている	
内容③	子どもの自立に向けて段階的な支援が行われている。11月の面談では2、3年生の保護者を対象に、4年生に向けた自立の確認を保護者と共有している。3月の面談では、3年生の保護者に卒所後も安心して過ごせるよう「ゆるやかな支援」制度について説明している。この制度では、卒所した子どもが4年生の夏休みまで新BOPで昼食を取ることができ、生活の移行を穏やかに進めることができる。実際の利用者は少数ではあるが、保護者の不安軽減に寄与しており、生活の移行を支える新BOP独自の支援として意義深い取り組みである。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	おやつ時間は、食育の視点を取り入れた大切な生活の場であり、子ども一人ひとりの様子を観察する機会にもなっている
	内容	クラブでは、おやつ時間を「学童タイム」と呼ぶことで、学童クラブ以外の子どもたちへの配慮がなされている。おやつ担当の職員は、食べ方のマナーや食べ物への感謝の気持ちを子どもたちに日々伝えており、ふざけて食べる子どもには「食べ物で遊んではいけない」と丁寧に指導している。子どもたちは、おやつ時間を楽しみにしており、食育の視点を取り入れた大切な生活の場であり、子ども一人ひとりの様子を観察する機会にもなっている。他者への思いやりや、日常の中での気づきを育む時間として温かく丁寧な支援が行われている。
2	タイトル	必要な場所に必要情報が掲示され、視覚的にわかりやすい環境が整っており、業務の標準化と子どもの自立支援が両立されている
	内容	部屋には職員向けの清掃手順書が掲示され、業務の標準化が図られている。子ども向けには、人形遊びや工作のルールがわかりやすく表示され、遊び方の理解と自立的な活動を促している。廊下には新BOPのきまりやおたよりの掲示があり、写真を用いて子どもの様子が伝えられている。見学者にもわかりやすく、大人と子ども双方に配慮された案内となっている。一方、学習に使用する部屋はPTA等の利用もあるため掲示は控えられており、用途に応じた工夫が見られる。必要な場所に必要情報が整理され、視覚的にわかりやすく伝える工夫が随所に見られる。
3	タイトル	学校との密な連携を活かし、施設活用や情報共有を通じて、子どもたちが安全・安心に活動できる居場所づくりを進めている
	内容	事務局長を中心に職員が学校と密に連携し、子どもたちが安全・安心に活動できる居場所づくりと支援の質の向上に取り組んでいる。クラス担任や養護教諭と日常的に情報を共有し、児童数の増加に対応して、学校から家庭科室などの特別教室、図書室、体育館などの柔軟な活用も得て、子どもたちはさまざまな活動の機会を広げている。また、1・2年生の教室配置変更による靴箱の利便性向上や放送機器の使用の便宜も図られている。新BOP連絡協議会を通じ、父母会やPTA、地域団体との関係づくりも進み、学校や地域と一体となった支援が行われている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「意見ポスト」を設置し、3年生だけでなく幅広い子どもたちが意見を出せる仕組みを整えることで、主体性をさらに高める工夫が期待される
	内容	運動系イベントにおいて、職員の声掛けにより子どもたちが係を担当したり、意見を出し合ったりする場面が設けられている。特に3年生がリーダーとして活躍することで、役割意識や協力の姿勢が育まれている点は評価できる。一方で、子どもたち自身からの自主的な企画にはつながりにくく、職員も多忙のため積極的な働きかけが難しい状況である。聞き取りは行われているものの企画化には至っていないため、「意見ポスト」を設置し、3年生だけでなく幅広い子どもたちが意見を出せる仕組みを整えることで、主体性をさらに高める工夫が期待される。
2	タイトル	ホワイトボードを活用して、予定や活動場所を視覚的に示すことで、子どもが見通しを持って過ごせる支援が可能となる
	内容	廊下や室内には遊び方のルールやお知らせが掲示され、子どもの目線に合わせた工夫がされている。一方で、その日の予定は、職員からの口頭での伝達が中心であり、子どもが自ら確認できる仕組みは十分ではない。登所時にはカードで出席確認と帰宅時間の記録が行われ、子どもが自分のネームプレートをホワイトボードの帰る時間の枠に貼る形式が取られている。ボードの一角にはスペースがあり、その日の予定や使用可能な場所・時間を視覚的に明示することで、子どもが一日の見通しを持ち、自主的に過ごす力を育む環境づくりが期待される。
3	タイトル	支援ニーズの高い子どもが多数在籍する中、職員間での情報共有に努めつつ、組織全体での支援の質、対応力の向上に期待したい
	内容	全面介助が必要な児童や、気持ちのコントロールが難しく暴言や激しい行動が見られるなど、多様な支援ニーズをもつ児童が在籍している。限られたスペースで多くの子どもが過ごす中、職員には様々な対応が求められる。ミーティングで情報を共有し、仲介や安全確保に努めているが、高度な判断が必要な場面に対しては職員体制や力量が十分とはいえない状況がある。研修受講に加え、子どもへの関わり方や支援方法を指導する体制が強化されているが、学びを实践へ活かすには時間を要するため、組織としてさらなる支援の質と対応力の向上が望まれる。